

中永廣樹氏講演 アンケート

◎鳥取県での取り組みがよくわかりました。

◎まずは中永先生のお人柄がよく表れている話し方が心地よく、熱い言葉なのに穏やかな空気が流れているのが感じられました。やはり教育に携わっていた方、高校生を教えていた方、そして教育長をされていた方だけあって教育が、本が、読むこと(=理解を深める事)が、人を作るのだと実感しました。(そんな仕事の端くれが担えて幸せです)

教育はすぐに成果が出ない事です。図書館が子どもや人々に与える影響が表れるのもとても時間がかかります。そのことを行政の職員に理解してもらうのはかなり困難です。(だから図書館のポジションが低いのです)

でも諦めないで今の自分ができることから少しずつでもやっていこうと思いました。

図書館職員より

◎図書館がどうあるべきか、という押し付けではなく読書の持つ力を体験を元に話していただくととても理解しやすかったです。

◎指定管理者制度を頭から否定するのは間違っていると思っていて、(中永さんのことではないです)直営より技術、ノウハウの整った企業もあり、また、契約社員とはいえ直営の非常勤よりは待遇は良い。直営でも人をどうするのか、しっかり考えていくことが必要だと感じました。

◎鳥取県の図書館に注目しています。今日の講演でなぜ、鳥取県立図書館が素晴らしい数多くの参考になるサービスをしているのかの理由の一端がわかりました。人の問題が大きいと思いました。全国に司書募集、県立高校と図書館の司書の移動が良かったと思います。米子の指定管理ストップする話もとても参考になりました。

◎図書館は教委が、という事を考えていましたが、中々はっきりと答えられませんでした。言語化していただけてよかったです。

◎ご自身の経験を踏まえ具体的でわかりやすい講演でした。

◎片山前知事の話はもう少し少なく手も良かったのでは？

◎ご自身の経験談などをもっと聞きたかった。

◎楽しく興味深く聞けました。

◎久しぶりに良い講話だった。

◎図書館の重要性を認識できた。

◎読書の有用性・本の力を認識。

◎図書館の役割や機能についての熱弁は、先生の人生観そのものであろうと感じました。

◎人間の生き方、心の成長を促す読書の力の必要性を改めて確認できたお話でした。「知る権利」「思想の自由」民主主義の本質を見失いつつある今日日本政治政策を不安と心配で深考している一人です。

◎仕事にすぐに役立つことを学ぶだけでなく、読書を楽しむことがとても大切だというお話が印象的でした。図書館は自立支援をする場であるというお話も、図書館員として励まされ、また、自分のしている仕事の大切さ(県民にとって)を改めて感じました。ご自身の体験を元にお話しして下さったので読書の力、それを支える大人や図書館の重要さがよくわかりました。

◎大変面白いお話をありがとうございました。これからの学校図書館・公共図書館の行く先が少しわかった気がします。本の力は大事なんだな、と改めて思いました。

◎貴重なお話をありがとうございました。たった一冊の本との出会いから現在までのお話はとても心強く聞かせていただきました。ただ、本日一番お聞きしたかった「図書館を指定管理者から守った取り組み」という内容が時間の関係で通り過ぎてしまい残念でした。今後そのような状況に直面するであろう場合にたった一人の微力ではありますが自分は何をしてどのようにすれば力になれるのかという方法を具体的な手順を追って詳細を知りたかったです。

◎資料6・7の「指定管理者」「地域づくり人づくり」が時間がなくて詳しく聞けず残念。思っていた内容と違っていた。質問タイムでどうにかフォローしてもらってよかったです。図書館を支える人あつての図書館。静岡は友の会の方がいて羨ましいです。

◎読書活動と図書館が果たすべき役割について一貫した思いと論理をもって現場で活躍されていたご様子を知ることができ大変刺激になりました。

◎とてもエネルギッシュで興味深いおはなしでした。鳥取県図書館を本庁化したというお話が印象的でした。

やっぱり出先機関ではないというのが鳥取の強みなのかと。また、繰り返し教育機能の大切さを語って下さったのもとても心強く感じました。人づくりは図書館の大切な仕事ですね。

◎中永さんはビシッと決まったスーツでダンディ方、というのが本日初めて会って印象。でも、お話は人間味にあふれるものでした。トップの考え方が大切。本当にそうです。自立の話が心に残りました。

◎読書の大切さ、図書館の大切さが伝わる熱い講演でした。上の人の情熱と手腕、その下にいる人の力やアイデアこれを取り上げ実行することが出来る土壌が必要ながよく見えたお話でした。大変参考になりました。

◎私は高校国語教員を目指している大学2年生です。司書教諭の資格も取りたいと考えていますが、高校生・大学生の読書離れは近くで感じています。友人は大体「本を読まなきゃと思うけど時間がない」と言います。私がこの言い分に違和感を覚えるのは、読書に使命感は必要ない、また、時間は作るものだと考えるからです。

中永先生の授業で本に目覚めた子どもたちのように自分を変える1冊に出会う幸せ者が一人でも増えてほしいです。私が通っていた高校でも「読書会」が年に1度、学校単位で行われていました。クラスで1冊本を選び、全員が購入して読んでおき総合学習の時間に話し合いました。読書好きの友人がほとんどいない中でクラスの全員と1冊の本の感動を共有できる喜びが大きかったのを覚えています。(1年『アルジャーノンに花束を』2年『こころ』3年『人間失格』中永先生の講話でこの活動の偉大さを改めて実感しました。

私が図書館へ行くきっかけになったのは、母親の影響が大きかったです。小学校低学年の頃から週に1度母に連れられて毎週5冊借りていました。親が子に与える影響の大きさを考えると学校教育だけでなく家庭でも読者の見本が必要だと思います。また、中3、高3では勉強の際にお世話になりました。本だけでない図書館の役割も大きなものがあります。指定管理者制度が導入されることで今のすばらしい図書館が失われてしまうのは不安です。学生の私にできることはほぼ無いかもしれませんが勉強したいです。

最後に私は国語の勉強をするために本を読むのではなく読書をより深く楽しむために国語を勉強すると思っています。もしも教員になれたら子どもと関わるチャンスが出来たら是非知の世界に誘い込みたいです。